

蜂屋邦夫訳注「老子」ワイド版岩波文庫、岩波書店2012年4月17日刊を読む

無用の用

1. 三十本の輻^やが一つの轂^{こしき}を共にする。その空虚なところにこそ、車としての働きがある。埴^{ねんど}をこねて器^{うつわ}をつくる。その空虚なところにこそ、器としての働きがある。戸や窓をうがって部屋をつくる。その空虚なところにこそ、部屋としての働きがある。
だから、形有るものが便利に使われるのは、空虚なところがその働きをするからだ。
2. 三十の輻^{ふく}、一轂^{こく}を共にす。其の無^なに当たりて、車の用^{よう}有り。埴^{しよく}を埴^こねて以て器^{もつ}を為^{うつわ}る。其の無^なに当たりて、器の用^{よう}有り。戸牖^{こゆう}を鑿^{うが}ちて以て室^{しつ}を為^{つく}る。其の無^なに当たりて、室の用^{よう}有り。
故^{ゆえ}に有^なの以て利^なを為^なすは、無^なの以て用^なを為^なせばなり。
3. <参考>「輻^{ふく}」は車輪の中心部と外輪部をつなぐ木の棒。スポーク。古代中国では輻は三十本と決まっていた。「轂^{こく}」は車輪の中心の部分で、車軸を通すもの。

P50～51

[コメント]

「論語」と並ぶ中国の古典中の古典「老子」全81章はしみじみと心に染みる。まだ読んでいない方は是非御熟読を。

－2013年2月7日 林 明夫記－